

烏帽子会会報

2025年春号 Vol.78



臨床実習生認定・白衣授与式 集合写真(R6. 12. 13)

■ 会長挨拶	3 P
■ 第44回烏帽子会総会のご案内	4 P
■ 教授就任挨拶	5 P
■ 教授退任挨拶	12 P
■ 学会報告	20 P
■ 支部だより	26 P
■ 学生会員支援報告	30 P

福岡大学医学部同窓会

目 次

・ 会長挨拶	小 玉 正 太	3
・ 第44回烏帽子会総会へのお誘い	荒 武 憲 司	4
・ 教授就任挨拶		
教授就任のご挨拶	井 上 貴 仁	5
教授就任のご挨拶	喜多村 泰 輔	6
福岡大学病院卒後臨床研修センターと歩み、学ぶ	八 尋 英 二	7
教授就任のご挨拶	平 山 雅 敏	8
教授就任ご挨拶	貴 田 浩 志	9
ご挨拶	鎌 田 聡	10
教授就任挨拶	早稲田 龍 一	11
・ 教授退任挨拶		
教授退任の挨拶	岩 崎 昭 憲	12
教授退任のご挨拶	松 永 彰	13
烏帽子会との半世紀	浦 田 秀 則	14
福岡大学における眼科の臨床と研究の場への感謝の20年間	内 尾 英 一	16
教授退任のご挨拶	東 登志夫	17
退任ご挨拶	山 下 眞 一	19
・ 学会報告		
Satellite Symposium of Asia-Pacific CardioMetabolic Syndrome Congress (APCMS) 2025 開催のご報告 ...	三 浦 伸一郎	20
第28回日本バイオ治療法学会学術集会開催報告	四 元 房 典	21
第7回日本抗加齢医学会九州地方会学術総会を終えて	武 田 淳 也	22
第70回日本臨床検査医学会九州地方会・第36回日本臨床化学会九州支部総会・		
第5回日本医療検査科学会九州地方会 合同学会 開催のご報告	小 川 正 浩	24
第8回日本小児内分泌学会 九州・沖縄地方会の開催のご報告	佐々木 聡 子	25
・ 支部だより		
2024年「上方会」関西支部便り	渡 邊 太 郎	26
第30回 鹿児島支部総会および懇親会報告	橋 口 恭 博	27
大城昌平先生の喜寿祝い	長 井 健 祐	28
福岡支部女性の会報告	案 浦 美 雪	29
・ 学生会員支援報告		
令和6年度M4白衣授与式の報告	北 島 研	30
白衣授与式・臨床実習生認定式を終えて	岡 本 克 隆	31
M6国試対策委員会による国試対策直前講座と激励会開催のご報告	北 島 研	32
第32回全国私立医科大学同窓会連絡会全国会のご報告	北 島 研	37
・ 医局長・医長名簿		38
・ 教育職員人事		39
・ 編集後記		39

同窓会ホームページ共通 ID、パスワード

ID : eboshikai
パスワード : fukudai1 (数字)



ホームページ用二次元
バーコード

会長挨拶

会長挨拶

烏帽子会 会長 小 玉 正 太 (13回生 福岡大学医学部 再生・移植医学 教授 医学部長)



福岡大学医学部は創立後 53 年を迎え、約 5000 人にのぼる卒業生を輩出しています。その卒業生の貢献は医療に関する地域社会貢献をはじめ、大学・基幹病院での若手医師育成、医師会をはじめ地域医療行政にもかかわり多岐にわたります。また、烏帽子会ゆかりの卒業生、学生会員、準会員、学生の父母の皆様におかれましては、多忙を極める毎日をお過ごしのことと存じます。

さて、2021 年 12 月より同窓会長として学部内外で同窓会事業を紹介し、同窓会の公共性や社会貢献の意義、知名度向上に努めてまいりました。今後も引き続きまして、多くの同窓会事業や学内外の状況を発信し、広く同窓生にご理解頂きますように鋭意努力致しますので、どうぞ宜しくお願い致します。

同窓会における同窓生サポートとは、新旧卒後医師や学生の交流を深め先輩後輩の絆を結び、学生・若手医師をサポートする後援的な活動を意味します。

決して「先輩風」をふかすだけの、時代や場にそぐわないパタリズムのな集団であってはなりません。そのため先輩は後輩の“ロールモデル”として手本となる道標を示すべきであると考えます。しかしながら、学内の同窓生は「学業成績」や「論文業績」など、限られた評価軸に偏りがちな「学校の先生集団」となってしまうおそれもあります。特に私のように医学部長を兼任する同窓

会長としては、これらのバランスをはかり、学内外の進歩的な改革を目指しています。

学外の活動としましては、同窓会長就任後各支部総会へ参加して、講演はじめ意見交換を重ねてまいりました。関西支部(上方会)総会、筑後支部総会、佐賀支部総会、佐世保支部総会、鹿児島支部総会、有信会宮崎支部、関東支部総会の皆様方に於かれましては、支部の課題や大学からの近況報告をはじめ多くの前向きな話し合いができ、大変進歩的な意見交換ができました。また新規発足の交流部会への同窓会サポートも始めています。加えて、残念ながら、同窓会長の支部総会参加の叶わなかった支部もこれを機に本部との連携や交流を是非積極的に深めていただければと思っております。そして、皆様に於かれましてはぜひ総会にもお誘いの上ご参加頂き、新任教授はじめ若手卒業生の活躍を直に見聞きして頂きたく存じます。

さて福岡大学病院の本館が開院しましたが、その隣には旧本館の臨床講義棟が移転する多目的棟(仮称)が建設中で来春には完成予定となっています。同時に旧本館の教育施設でもあった、シュミレーションセンターが多目的棟(仮称)に移転し、多目的棟(仮称)は本館の隣という立地条件に加え、最上階のシュミレーションセンターからストレッチャーをはじめ人工呼吸器や ECMO に至るまで、対応エレベーターで移動可能となっています。大講堂には巨大液晶ディスプレイに加え最新の通信機器で整備され、配置された机椅子は収監可能で広大なフラット・スペースが出現し確保可能となります。医療用配管の設置も加味され、海浜地区で有事の際も残る福岡市西部南部地区の代表的な災害時に対応する DMAT 拠点施設とされる設定になっています。この施設は、烏帽子地区の学生教育はもとより、医学部卒前後教育、各種実習・研修を提供できる場として大いに期待されています。

最後になりましたが、烏帽子会ゆかりの皆様今後益々のご健勝とご活躍をお祈り致します。

第 44 回烏帽子会総会 開催要領

第 44 回烏帽子会総会へのお誘い

主幹事学年：28回生代表 荒 武 憲 司（福岡赤十字病院 救急科）

行く春を惜しみつつ新緑に目をうばわれる時節、皆様にはご清祥のことと存じます。

早いもので、烏帽子会総会は第 44 回を迎え、医学部開設は 53 周年、また、昨年 2024 年には福岡大学病院新本館が開院されました。

我が母校もますます活気づいて盛り上がっています。

そのような中で、令和 7 年 7 月 5 日に烏帽子会総会が開かれます。

現在、第 28 回生が中心となり、第 38 回生と

もに鋭意準備を進めております。

今回、研究やスポーツで活躍・貢献された方の表彰、我が同窓生の講演会や久方ぶりの懇親会も企画しておりますので、多くの方にご参加いただき、昔話に花を咲かせ、近況などを報告し合い、喜びを分かち合っていたきたいと思います。ぜひ、奮ってご参加ください。

何卒よろしくお願いいたします。



日 時：令和 7 年 7 月 5 日 土曜日

会 費：10,000 円

場 所：ソラリア西鉄ホテル 8 階

福岡市中央区天神 2-2-43 電話（代）092-752-5555

総 会：17 時 00 分～18 時 20 分

講演会・懇親会：18 時 30 分～20 時 00 分

講 演：横関 弘一先生「整形外科医のよもやま話」

※ご出席を希望される方は「maileboshi@gmail.com」のアドレスへ

7月1日までにお送りください。

教授就任挨拶

教授就任のご挨拶

福岡大学病院 総合周産期母子医療センター 教授 井上 貴 仁 (15回生)



井上 貴仁
センター長・教授 略歴

1992年3月
福岡大学医学部卒業
1992年6月
福岡大学小児科研修医
1999年3月
九州大学大学院医学研究科
分子医学系専攻・博士課程修了、
博士(医学)学位取得
2000年5月
福岡大学小児科助教
2013年10月
福岡大学筑紫病院講師
2014年10月
福岡大学医学部講師、
福岡大学病院小児科副診療部長
2017年10月
福岡大学病院小児科 准教授
2018年4月
福岡大学西新病院 成育医療
支援センター長 小児科 准教授
2018年11月
福岡大学病院遺伝医療室指導
責任医(兼務)
2020年10月
福岡大学筑紫病院 小児科
診療教授
2023年4月
福岡大学筑紫病院 小児科
診療部長 診療教授
2025年4月
福岡大学病院総合周産期母子
医療センター センター長・教授

2025年4月1日に福岡大学病院総合周産期母子医療センター教授を拝命いたしました井上貴仁と申します。1992年に福岡大学医学部を卒業後、その暖かな雰囲気に惹かれ福岡大学小児科学教室に入局し研修医生活をスタートしました。

その後、小児神経学を学び、1995年からは九州大学大学院で、遺伝子治療の基礎研究を行い学位を取得しました。福岡大学病院、九州厚生年金病院(現 JCHO 九州病院)、高木病院(小児科部長)、福岡大学西新病院(成育医療センター長)、福岡大学筑紫病院(診療部長、診療教授)などで、一般小児疾患から、小児科専門医、小児神経専門医、てんかん専門医、臨床遺伝専門医としての専門疾患まで幅広く診療してまいりました。

早期発見、早期治療を目的としたライフワークでもある拡大新生児スクリーニングを、福岡県で2007年から全国に先駆けてその体制構築から実施に関わってきました。福岡県では33万人以上の新生児がこの拡大新生児スクリーニングを受検し、発症前に治療し良好な結果を得ています。今後も対象疾患を拡大し、早期発見、早期の医療介入、発症予防を目標に取り組んでいく所存です。

私が着任した福岡大学病院総合周産期母子医療センターは1998年、国および県より、周産期医療の中核施設である総合周産期母子医療センターとして、福岡県で初めての指定を受け、福岡県の周産期医療対策事業の中心的医療施設として機能しており、20年以上の長きにわたり、福岡県の周産期医療を支えてきました。これまでの経験をもとに、少子化の中での母子保健としての新生児スクリーニングのさらなる発展、これら疾患に関係する遺伝医療への取り組み、神経学的ハンディキャップを持ったNICUを退院した児のフォローアップ体制の構築などを目標に精一杯努めてまいります。前述した拡大新生児スクリーニングを通して築き上げた産科の先生方との強い信頼関係と太いつながりを生かし、地域産科の先生方とも密な連携を計り今後の周産期医療に尽力してまいります。

今後ともご指導ご鞭撻の程よろしくお願いいたします。

教授就任のご挨拶

福岡大学病院 救急治療センター 教授 喜多村 泰 輔 (16回生)



喜多村 泰輔
教授 略歴

1986 年 (昭和 61 年)
青雲高等学校 卒業
1993 年 (平成 5 年)
福岡大学 医学部 医学科 卒業
福岡大学病院 救命救急センター
入局
1996 年 (平成 8 年)
福岡大学病院 整形外科
1997 年 (平成 9 年)
熊本整形外科病院
1998 年 (平成 10 年)
総合せき損センター
2000 年 (平成 12 年)
福岡大学病院 救命救急センター
2012 年 (平成 24 年)
福岡東医療センター 救急部長
2013 年 (平成 25 年)
高知医療センター
救命救急センター長
2016 年 (平成 28 年)
福岡大学病院
救命救急センター 助教
2017 年 (平成 29 年)
同 講師 救命救急センター
副センター長
2019 年 (平成 31 年)
同 准教授
2024 年 (令和 6 年)
福岡大学病院 救急治療センター
副センター長
2025 年 (令和 7 年)
福岡大学病院 救急治療センター
センター長 教授

このたび、福岡大学病院 救急治療センターの教授を拝命いたしました、第 16 回生 (1993 年卒) の喜多村泰輔と申します。このような大任を仰せつかり、身の引き締まる思いです。

福岡大学病院 救急治療センターは、初期から二次救急を担う部門です。当院は 2013 年に救急告示病院の指定を受け、急患診療部として二次救急診療への取り組みを始めました。その後、総合診療科を中心に体制を整え、2024 年 5 月には、地域の二次救急医療の中核を担うべく、鍋島茂樹教授をセンター長として救急治療センターが発足し、今年度よりその運営を私が引き継ぐこととなりました。

私は長崎青雲高等学校卒で福岡大学医学部時代は硬式庭球愛好会に所属しておりました。卒業後は福岡大学病院 救命救急センターに入局し、救急整形外傷を中心に重症救急患者の診療を行い、福岡大学病院の災害医療派遣チーム (DMAT) の体制構築・院内の防火防災体制・BCP (Business Continuity Plan) 策定等、福岡大学病院の災害対策に加えて病院内の急変対応システム RRS (Rapid Response System) の構築や心肺蘇生講習にも関わり、院内医療安全にも努めております。

さて、福岡市では 2023 年の救急出動件数が初めて 10 万件を超え、「救急搬送困難事案」も増加するなど、地域の救急体制のひっ迫が深刻化しています。こうした状況下で、当センターが地域の二次救急の中核として機能できるよう、院内各科や救命救急センターと協力し、地域の先生方からのご紹介や救急隊からの救急患者の受け入れを強化してまいります。

また、救急外来は若手医師にとって、限られた時間と情報の中で適切な判断力を養う極めて重要な学びの場でもあります。今後は教育・臨床・研究の三本柱をさらに充実させ、次代の福岡大学医学部を担う人材育成に力を注ぐ所存です。

現在、当センターは私を含めた 3 名体制で診療を行っており、当直体制は、他診療科の先生方にご協力を頂いております。日頃のご支援に心より御礼申し上げます。

今後とも烏帽子会の皆様より、変わらぬご指導とご支援を賜りますよう、何卒よろしくお願い致します。

福岡大学病院卒後臨床研修センターと歩み、学ぶ

福岡大学病院 卒後臨床研修センター 教授 八 尋 英 二 (18回生)



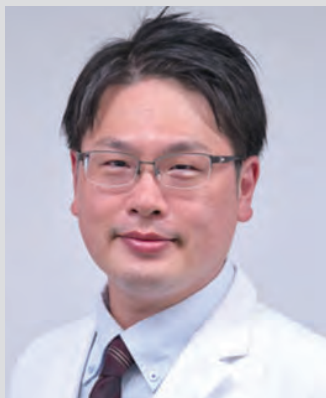
八 尋 英二
教授 略歴

- 1989 年
福岡大学医学部医学科入学
- 1995 年
福岡大学医学部医学科卒業
- 1995 年
福岡大学医学部第二内科入局
- 2001 年
福岡大学大学院修了
- 2001～2006 年
福岡大学筑紫病院循環器内科
- 2006～2009 年
研究留学 (University of Alabama at Birmingham, Emory University)
- 2009～2014 年
福岡大学医学部心臓血管内科学
- 2014 年～2023 年
福岡大学医学部医学教育推進講座
- 2024 年～現在
福岡大学病院卒後臨床研修センター

このたび、福岡大学病院卒後臨床研修センターの病院教授を拝命いたしました八尋英二でございます。身に余る光栄とともに、その責務の重さを改めて痛感し、身の引き締まる思いでございます。私は、1995 年に福岡大学医学部医学科を卒業し、福岡大学医学部第二内科に入局させていただきました。その後、内科医としての研鑽を積み 1997 年以降は循環器内科医として臨床、研究そして教育に尽力してまいりました。臨床面では、多くの諸先輩から色々とご指導をいただきました。特に侵襲的検査及び治療は福岡大学筑紫病院在籍時 (2001～2006) に多く経験させていただきました。研究面においては、大学院時代から留学時代も含めて福岡大学医学部同窓会には多大なる支援をいただき大変お世話になり、心から感謝いたします。教育面では、2014 年から医学生に対して卒前教育に専任してまいりました。その際にも、福岡大学医学部同窓会には医学生に関する行事等において多大なる支援をいただきました。重ねて、福岡大学医学部同窓会には厚く感謝申し上げます。2024 年 4 月から福岡大学病院卒後臨床研修センターの専任医師として主に研修医の卒後教育に専任させていただき、2025 年 4 月からは病院教授を拝命させていただきました。卒前教育とは違い、将来の地域医療を担う研修医の奮闘ぶりを日々感じ、福岡大学の病院で研修医が思う存分将来のキャリアパスを思い描きながら多様な医療に従事できる環境整備などマネジメントの困難さを感じております。現在の研修医制度は、必修診療科と選択診療科に分かれています。基本的には各診療科で厚生労働省が定める到達目標を研修医が達成できるようご指導いただきます。この一年間で、無駄なことやらなければいけないことなどいくつか自分なりに発見できましたので、1 つずつ研修医はもとより上級医や指導医の負担を少なくし教育環境を整えながら皆が臨床・研究・教育に専念できるような魅力ある研修プログラムの構築を実践していきたいと思います。それには、福岡大学医学部同窓会の支援が必要です。今後も、至らぬ点が多分にあるかと存じますが、皆様のご指導とご支援を賜りますよう、心からお願い申し上げます。

教授就任のご挨拶

福岡大学医学部 眼科学講座 主任教授 平 山 雅 敏 (特別会員)



平山 雅敏
主任教授 略歴

1999 年
法政大学第二高等学校卒業
2006 年
北里大学医学部卒業
2008 年
北里大学病院初期臨床研修修了
慶應義塾大学医学部眼科学教室
後期臨床研修医
2010 年
東京歯科大学市川総合病院眼科
臨床専修医
2011 年
慶應義塾大学医学部眼科学教室
2014 年
慶應義塾大学大学院医学研究科
博士課程修了(博士(医学))
慶應義塾大学医学部眼科学教室
特任助教
2015 年
米国ソーク研究所 博士研究員
2017 年
日本学術振興会海外特別研究員
(米国ソーク研究所)
2019 年
東京歯科大学市川総合病院眼科
助教
2022 年
慶應義塾大学医学部眼科学教室
専任講師
2024 年
慶應義塾大学医学部眼科学教室
准教授
2025 年
福岡大学医学部眼科学講座
主任教授

現在に至る

この度、2025 年 4 月 1 日付けで、福岡大学医学部眼科学講座 主任教授を拝命いたしました。創設以降、増田義哉教授、大島健司教授、内尾英一教授により発展してきた伝統ある本講座の歴史と重責を思うと、身の引き締まる思いでございます。

私は 2006 年に北里大学医学部を卒業し、初期臨床研修を修了後、慶應義塾大学医学部眼科学教室(坪田一男教授、現・㈱坪田ラボ CEO)にて眼科学の修練を開始いたしました。当時、それぞれ独自にアイバンクを持っていた慶應義塾大学と関連病院である東京歯科大学市川総合病院眼科は、角膜移植術において本邦における国内角膜ドナー移植症例数の約 1/3 に相当する年間 500 例を施行する施設であり、高度に専門化した角膜移植医療に対応すべく、診療に従事してまいりました。

高齢社会、高度情報化社会の到来により、更なる視機能改善の手法の確立が期待される中で、光の入り口となる角膜医療もその重要性を増しています。そのため、角膜医療における慢性的な課題である角膜ドナー不足に対して、最先端研究を用いて解決する技術が開発され、まさに今、これまでの角膜移植術が技術的転換をする記念碑的時代に立ち会っています。培養細胞・iPS 細胞を用いた上皮組織再生シートを用いた眼表面再建や、培養角膜内皮細胞の注射療法、我々が開発してきた iPS 細胞由来角膜内皮代替細胞療法は、驚くべきことにすべて日本から創出され、世界へと拡大する医療イノベーションです。当科における角膜移植・前眼部診療チームを、こうした技術革新を推進し国際的に先端角膜医療を先導する医療チームへと育成し、当科のフラッグシップとして確立することをひとつのミッションと位置付けています。同時に、これまで当科が培ってきた小児眼科、網膜硝子体、緑内障、眼炎症における知見と経験をさらに重視して発展させ、前眼部診療を含む各専門領域との学際領域を担う専門医を育成し、臨床と研究を推進してまいります。

福岡大学に赴任以降、はやくも多くの皆様に助けいただき、大変感謝しております。福岡大学の人々が生み出す大学全体の活気、力強さ、優しさ、おおらかさ、真面目さ、ちょっとずつですが感じる事ができ、嬉しく思います。“組織は人なり”という言葉がありますが、福岡大学医学部の皆様に少しでも多く関わり、福岡大学医学部に関わる人々すべてを宝として“健全な幸せ (Well-being)”を追求できたらと思います。今後ともご指導のほどよろしくお願い申し上げます。

教授就任ご挨拶

福岡大学医学部 解剖学 主任教授 貴田 浩志 (特別会員)



貴田 浩志
教授 略歴

2000 年
長崎県立島原高等学校卒業
2006 年
久留米大学医学部卒業
2006 年
久留米大学病院 初期臨床研修医
2008 年
久留米大学医学部内科学講座
呼吸器・神経・膠原病内科 助教
2009 年
済生会福岡総合病院 神経内科 医員
2013 年
久留米大学大学院医学研究科
博士課程 入学
2017 年
ナノ医療イノベーションセンター
客員研究員
2018 年
福岡大学医学部 解剖学講座
研究支援者
2019 年
福岡大学医学部 解剖学講座 助教
2021 年
福岡大学医学部 解剖学講座 講師
2023 年
福岡大学医学部 解剖学講座 准教授
2025 年
福岡大学医学部 解剖学講座 教授

令和 6 年 4 月より、福岡大学医学部解剖学講座の主任教授を拝命いたしました。身に余る光栄とともに、その責務の重さに身の引き締まる思いであります。福岡大学医学部解剖学講座は昭和 48 年に解剖学第一講座として開講し、平成 14 年に基礎講座の再編に伴い、解剖学講座と改め、現在に至っております。

私は平成 18 年に久留米大学医学部を卒業し、初期臨床研修を経て、同大学の呼吸器・神経・膠原病内科（第一内科）に入局し、神経内科を専攻いたしました。ご存じのとおり、神経内科領域にはパーキンソン症候群や筋萎縮性側索硬化症、脊髄小脳変性症などの予後不良な神経難病が多くあります。このよう難病の患者さんの診療に取り組む中で、「神経難病の治療に繋がる研究をしたい」という思いを強くし、平成 25 年に久留米大学高次脳疾患研究所で大学院博士課程に進学するきっかけとなりました。

大学院では、レット症候群モデルマウスを用いた病態解明研究に取り組みました。日々、ピペットマンを握り、研究を進めながら、「神経難病の治療開発を妨げている最大の壁は何か」と考えた末に、私は「薬を脳へ届けることの難しさ」に行き着きました。そこから、薬物を効率的に臓器に届けるドラッグデリバリーシステム（DDS）に強い関心を持つようになりました。平成 29 年、大学院修了を前に、DDS 研究の国内拠点であるナノ医療イノベーションセンター（iCONM）に国内留学し、mRNA のデリバリーに関する基礎を学ばせていただきました。iCONM でセンター長を務められている東京大学名誉教授・片岡一則先生の言葉で、私が非常に感銘を受けたものがあります。それは『越境する好奇心』という言葉です。片岡先生は、「鮎の縄張りのように自分の専門という領域を勝手に作り、そこに籠もりながら他分野を覗き見るようでは、真のイノベーションは起きない。他分野に踏み込むことで、自分の殻の中で抱えていた思い込みに気づかされ、逆に、自分の専門が他分野の課題を解決しうる可能性にも気づかされる」と説かれています。

私は国内留学から帰学し、平成 30 年に福岡大学医学部解剖学講座に着任してからも薬物送達、特に、中枢神経を標的とする mRNA 医薬治療の実現に向けて、日々試行錯誤を重ねております。臨床の神経内科学を基盤としながら、基礎医学研究の道に進み、さらに工学的・薬学的要素を含む薬物送達学という軸を持つことで、研究者としての“越境”を心がけて精進しております。

教育の面では、解剖学講義および実習指導に従事しております。解剖学は、学生にとって初めて「生身の人体に触れる」機会であり、医師としての第一歩を踏み出す重要な科目です。実習初日には、手袋の装着やメス刃の取り付けといった基本から丁寧に指導しながら、学生一人ひとりが解剖学の奥深さと、医学を志す覚悟を体感できるよう努めております。

今後は主任教授として、解剖学講座の伝統を継承しつつ、新たな教育・研究の展開を図り、福岡大学のさらなる発展に貢献してまいりたいと考えております。何卒、先生方のご指導ご鞭撻を賜りますよう、心よりお願い申し上げます。

ご挨拶

福岡大学病院 リハビリテーション部 教授 鎌 田 聡 (特別会員)



鎌田 聡
教授 略歴

平成 15 年 3 月
旭川医科大学卒業

平成 15 年 4 月
福岡大学病院臨床研修医

平成 19 年 4 月
福岡大学大学院医学研究科
病態機能系専攻博士課程

平成 23 年 4 月
福岡大学病院リハビリテーション部
助教

平成 30 年 10 月
福岡大学病院リハビリテーション部
准教授

平成 31 年 4 月
福岡大学病院リハビリテーション部
診療部長

令和 7 年 4 月
福岡大学病院リハビリテーション部
診療部長・教授

令和 7 年 4 月より福岡大学病院リハビリテーション部の教授を拝命いたしました。私は平成 15 年旭川医科大学卒業後、同年福岡大学整形外科へ入局させていただきました。平成 23 年内藤 正俊名誉教授のご指導のもと学位取得後、同年よりリハビリテーション部に配属となりました。配属後は、内部疾患や脳神経疾患の患者対応に戸惑っていましたが、塩田 悦仁名誉教授のご指導やリハビリテーション部スタッフのアドバイスもあり、徐々に対応できるようになりました。リハビリテーション科専門医・指導医を取得し現在に至っております。

リハビリテーションはほぼ全ての分野の患者と関わっていく分野であり、高齢化社会が進行していく中で、その役割が今まで以上に重要になってきています。当院の特徴として症例数の多さだけでなく多様性にあるかと思われます。院内全ての科からリハビリテーションの依頼があります。依頼症例には 75 歳以上のいわゆる後期高齢者が多く含まれ、ほとんどが複数の疾患・障害をかかえている重複障害患者です。このような症例では、一つの疾患・障害への対応だけでは ADL 維持と改善が困難であり、運動器障害・内部障害といったさまざまな障害へのアプローチが同時期に必要です。リハビリテーションの分野においても、各科・各部署との連携が以前にも増して必要となってきている状況と思われます。医療制度が目まぐるしく変化するなかで、リハビリテーション部がチーム医療の一翼を担いかつ病院経営に貢献できるように努めていきたいと思っています。

学生教育では、リハビリテーションの重要性はもちろんのことですが、説明と同意・多職種連携などにも触れ、医療現場で役立つ知識も講義や実習を通して学生に伝えていきたいと考えています。研究では私の専門である整形領域だけでなく、他の分野にもチャレンジをし、可能な限り各診療科の診療や臨床研究に協力していきたいと考えています。

最後に、大学病院のリハビリテーション部として、“近隣の施設の見本となるよう日々研鑽する”・“得意分野をつくっても苦手分野をつくらない”を心がけていきたいと思っています。今後ともご指導ご鞭撻のほどよろしくお願い申し上げます。

教授就任挨拶

福岡大学筑紫病院 呼吸器・乳腺外科 教授 早稲田 龍一（特別会員）



早稲田 龍一
教授 略歴

1994年3月
金沢大学教育学部附属高等学校 卒業
2001年3月
金沢大学医学部医学科 卒業
2001年5月
金沢大学 心肺・総合外科 研修医
2007年12月
金沢大学 医学系研究科博士過程
心肺病態制御学修了
2010年8月
金沢大学 心肺・総合外科 助教
2014年4月
ウィーン医科大学 胸部外科学講座
clinical fellow
2016年4月
福岡大学 呼吸器・乳腺内分泌・
小児外科 講師
2023年4月
福岡大学 呼吸器・乳腺内分泌・
小児外科 准教授
2025年4月
福岡大学筑紫病院 呼吸器・乳腺外科
教授

このたび、2025年4月1日付で福岡大学筑紫病院 呼吸器・乳腺外科 教授ならびに診療部長を拝命いたしました早稲田龍一（わせた りゅういち）と申します。

私は2001年に金沢大学医学部を卒業後、同大学の心肺・総合外科に入局し、主に呼吸器外科領域を中心に、幅広い外科診療の経験を積んでまいりました。2014年から2015年には、ウィーン医科大学にて臨床留学の機会を得て、日本ではまだ限られていた肺移植や気道手術について専門的かつ系統的なトレーニングを受けることができました。帰国後も肺移植に取り組みたいという強い思いを抱いていたところ、2016年に岩崎昭憲教授のご厚意により、福岡大学で新たな道を歩む機会をいただきました。この10年、岩崎教授や佐藤寿彦教授のご指導のもと、診療・研究・教育に従事し、福岡の地に深く根ざした医療を実践してまいりました。

専門は呼吸器外科全般であり、肺がんをはじめとする悪性疾患から縦隔疾患、良性疾患、胸膜中皮腫、さらに肺移植や気道再建まで幅広い手術経験を有しています。福岡大学が得意とするロボット支援手術を含む低侵襲手術にも力を入れており、現代の呼吸器外科に求められる多様な技術に対応できることが私の強みだと考えています。

研究活動としては、博士課程にてロボット手術の気管吻合への応用をテーマに研究を開始し、現在は「蛍光ナビゲーション法の開発」や「新たな模擬臓器による手術教育法の確立」など、医工連携を活かした新たな試みに取り組んでいます。

近年、外科医を志す若手医師が減少するなかで、地域の大学病院が果たす役割はますます重要になっております。診療・研究とともに、呼吸器・乳腺外科の魅力を若い世代に伝える教育にも注力してまいります。

当科は規模こそ小さいものの、フットワークの軽さと丁寧な診療を大切に、筑紫地域における肺がん・乳がん診療の中核を担ってまいりました。今後もその伝統を継承しつつ、個々の患者さんに最適かつ最先端の医療を届けるべく、日々精進してまいります。

最後になりますが、福岡大学および筑紫病院のさらなる発展に寄与すべく、尽力していく所存です。今後とも烏帽子会会員ならびに関係各位のご指導・ご支援を賜りますよう、心よりお願い申し上げます。

教授退任挨拶

教授退任の挨拶

福岡大学医学部同 総合医学研究センター 前教授 岩 崎 昭 憲 (5回生)



1982年に福岡大学を卒業し、直ぐに当時の第二外科の犬塚教室に入局し、ずっと在籍し43年間が経過しました。学生生活6年を加えると、49年とほぼ半世紀を過ごしたことになります。大学人としての建前である「教育・研究・臨床」の柱を支えるために努力をしたつもりですが、振り返ってみると一番比率が高かったのは、やはり臨床だった気がします。

教室は、「第二外科」から「呼吸器・乳腺内分泌・小児外科」に改名され、前任の白日教授より引き継いだ頃から、さらに教室員数や関連病院数の規模を倍以上に増やすことができ、後任の佐藤教授に大過なくバトンを引き継ぎ安堵しております。

この間、多くの思い出深い出来事がありました。1998年には、大学の1号研究員として「人工臓器研究」の目的で1年間の海外留学の機会をいただき、また東京のがんセンターなどの国内留学も経験させていただきました。これらの地で交流を深めた人脈が私の人生の大きな糧となりました。外科医とし、大変革時代のきっかけになった内視鏡手術の黎明期から、Robot手術まで取り組むことができた幸運にも恵まれました。

その結果、7000名を超える参加者を集めた31回日本内視鏡外科学会総会や、34回日本呼吸器外科学会総会などの全国学会も福岡大学の名のもとに主催させていただきました。医学部同窓会からも、ご支援をいただき大変感謝申し上げます。

さて朔学長の誕生により大学の新体制が変わる中で、2021年12月に病院長に任命いただき、そ

の負託にこたえるため張り切っておりましたところ、その1ヶ月後に新型コロナウイルスのパンデミックが始まりました。その後約3年間は、この嵐のような中の病院運営に奔走しました。おかげで精神的にも成長し、少々の困難には動じない胆力が身につきました。しかし、このような中でも念願であった50年ぶりの新本館建設の実施設計から着工、そして竣工まで関与させていただきました。病院50年誌編纂など忘れられない事業も経験させていただきました。このような貴重な機会をいただきました朔名誉学長に深く感謝いたします。

さて4月1日からは、大学から西に1.5kmにある「福西会病院」に移り、再び病院長として地域医療とグループ病院群の経営を支えるため奔走しています。同病院は中規模病院ですが、多くの診療科やセンターを有する特徴を生かし、昨年3000件以上の救急搬送を受け入れています。また福大病院への紹介患者数が一番多い病院ですし、M3の地域医療体験実習やM5の学外臨床実習の受け入れを行っていますので、引き続き医学部同窓会の側面支援をしたいと考えます。

最後になりましたが、多くの支えをいただきました医学部・病院や同窓会の方々に恵まれましたことを感謝するとともに、皆様のこれからの活躍とご健勝をお祈りしております。私も、これから趣味をもっと探し、少しは人生を楽しみたいと考えています。

本当に長い間ありがとうございました。



縄文杉の前で医局長とのショット
(教室生たちをつれて登った1回目の屋久島写真)

教授退任のご挨拶

福岡大学医学部 総合医学研究センター 前教授 松 永 彰 (3回生)



1980年福岡大学を3回生として卒業しました。当時は卒業後直ぐ入局だったので、第二内科に研修医として入局し、研修医一年目に福岡大学薬学部出身の妻と結婚しました。2年間の研修後は病態生化学系の大学院に入り、4年間を生化学教室でけっこう鍛えられて過ごしました。大学院修了後は、しばらく西福岡病院にお世話になりましたが、半年ほどで留学のお話を頂き、1986年11月よりダラスにあるテキサス州立大学サウスウエスタンメディカルセンターの生化学教室ヘリサーチフェローとして2年半留学しました。帰国後は一時、福岡大学病院救急部にもお世話になりました。1989年10月から福岡大学病院第二内科助手として採用され、その後2025年3月まで36年近くを福岡大学医学部、福岡大学病院で過ごさせて頂きました。

全てがうまく行くわけもなく、やり残したこともあります。臨床、研究、教育と自分なりに一生懸命に過ごし、妻の支えもあり家庭も守ることができました。生化学教室、第二内科、循環器内科、

臨床検査医学、臨床検査部の時代と、非常に多くの先生方、教室のみなさん、看護師、臨床検査技師のみなさん、病院・医学部の事務の方々に大変お世話になりました。感謝申し上げます。大変なことも、辛かったこともありましたが、今思えば色々経験させて頂き自分の経験値が上がり、良い思い出として残っています。

自分としては、教授を退任するまで大学に残っているつもりは無かったのですが、その時々でやりたいことやすべきことを続けてきた結果のよう思われます。

今、人生も後半の後半にさしかかっていますが、4月からは別の仕事(福岡女学院看護大学 学長)を頂いてチャレンジ中で、新人として不安とわくわくが入り交じった状態を楽しんでいます。

みなさん、ありがとうございました。

烏帽子会との半世紀

福岡大学筑紫病院 臨床医学研究センター 前教授 浦 田 秀 則 (3回生)

福岡大学医学部入学が1974年(学籍番号MM740015)だったので、定年退官の今年(2025年)で51年目になりました。凄くないですか同窓生の皆さん、半世紀以上ですよ!!同級生以上の先輩も含めて、同じように長期間福岡大学にお世話になった同窓生は数えるほどしかないと思います。本当に長い間有難うございました。心よりお礼申し上げます。

父親が希望した久留米大学医学部には入学できなかったのも、福大では頑張らないといけなと思う動機が芽生えていたのか、大学生時代は授業はなるべくさぼらず比較的真面目に過ごしました。定期考査試験前日に百足に刺されて勉強できなかった一科目だけ再試験を受けました。ひどい腰椎症は合併しましたが、6年間バレーボール愛好会でも頑張っており、5年生時に九州山口医科学大会の主幹で会計を担当し大学本部の総務課の担当事務官から会計報告書にミスがないと褒めていただいたのは自慢でした。バレーボールは今でも老体に鞭打って時々練習して毎年医学部長杯には出場しています。

6年生時、第1回目の実力テストをほとんどすべての運動部員が九州山口体育大会出場を理由にスキップしたことで西園医学部長室へ全員集合の上訓示を受けたので、幾つかのグループに分かれて皆で勉強して行く協力体制を作り、翌年の医師国家試験ではその当時の運動部員は全員合格したのは嬉しいことでした。今の学生は4年以上では愛好会活動も抑制されているようで可哀そうですね。熱中出来る運動とか趣味があった方が国家試験勉強にも集中出来るのではないのでしょうか?

無事に医師国家試験合格後1980年に荒川規矩男教授率いる第二内科へ入局し、福岡大学病院で2年間の内科研修後大学院へ進学しました。大学

院では荒川教授の専門分野である高血圧を詳しく勉強しその後40年間この分野に取り組むこととなりました。大学院のテーマは“高血圧症例での降圧運動療法”でした。この研究はスポーツ科学部との学部をまたいだ共同研究で画期的でした。2年先輩ですでにこのテーマで成果を出しておられた1回生で現在は福岡大学名誉教授の清永明先生の研究ご指導とゴルフの考え方・実践の特訓を受けました。残念ながら清永ゴルフ門下生で私ほどゴルフに関する習いが役に立っていない人はいないと思います。

研究の方は多くの方の助けを借りて大きな成果を上げることができました。その詳細は“徒然回顧録”に記載・製本し烏帽子会事務局へも寄贈しておりますので、ご希望される方はご参照ください。別に希望される方は直接郵送いたしますので私の方まで直接下記までご連絡いただければ郵送いたします。

大学院では運動降圧療法の効能と降圧機序を明らかに出来ました。大学院卒業後も運動療法関連の仕事を福岡大学病院で継続して行こうと思っておりましたが、留学することとなり1986年6月から米国クリーブランドクリニックへ赴任しました。

心臓移植の際に摘出されるヒト心臓を研究使用出来る機会に恵まれ、昇圧ペプチド・アンジオテンシンⅡ・産生セリン酵素のヒト心臓キマーゼを発見・抽出・同定・クローニングしました。6年の米国生活後独国へ3年留学して帰国しました。帰国後は医局・病棟業務とキマーゼ研究継続・臨床研究を継続しました。その結果、ヒトキマーゼ阻害作用のある紅タデスプラウトの乾燥・粉碎物を服用すると、家庭血圧が有意に低下することを証明できました。タデスプラウトは多くのポリ

フェノールを含有しており、ヒトキマーゼ抑制降圧作用を示します。美肌作用や創傷治癒促進作用もありお勧めです。

研究に従事して分かったことは、医学の分野で自分の思い通りの臨床や研究を推進するには、1. 前向きの研究に対する動機、2. 立場（協力医師や研究員雇用）、3. 時間、4. 資金などが同時進行で必要です。この条件（2 - 4）を確保して自分の思った研究などを推進するために教授になりたいと思うようになりました。七隈での主任教授就任は果たせず、筑紫病院内科第一で広木忠行教授（故人）の後任として2002年に就任させていただきました。大変有難い事で、荒川規矩男名誉教授とその当時の朔主任教授のお蔭でした。その後筑紫病院ではすぐに副院長も拝命し、自分には似合わない政治的活動に従事し、整形外科柴田教授・小児科小川教授・外科前川教授・耳鼻科坂田教授・消化器植木教授まで福岡大学出身教授が筆者を含めて6名誕生いたしました。

其の後も副院長業務として、大学病院としては初めての地域医療支援病院機能をより円滑に遂行するため内外で努力を重ね、筑紫医師会からは一定のご評価を頂いたものと自負しております。医療安全管理部長として多くの事案に関わり、筑紫病院内のインシデント・アクシデント対応を行ってまいりました。

2020年の役職定年後は管理職を離れましたので、2007年以後地域実地医家の方々に参加いただいた筑紫病院を基幹病院とするネットワーク（Chikushi-JRN）を利用したCHAT（CHikushi Anti XXXXX Trial-薬剤名）研究を完成させるために頑張りました。降圧薬・高脂血症薬・抗糖尿病薬・抗凝固薬など20のCHAT研究を完成しました。詳細は“徒然回顧録”をご覧ください。このCHAT研究は個人で施行する研究とは異なり、ネットワーク連携を利用した内外の協力が必要でグループ力が試されました。筑紫・朝倉・鳥栖・筑後・福岡地域には多くの烏帽子会会員が活動されており大変お世話になりました。筑紫病院の臨



浦田先生

床研究支援センターや優秀な研究補助の方々に恵まれ遂行することが出来たのは幸運でした。

現在の筑紫病院循環器内科は、後任の河村彰部長（病院長兼務）の下、冠動脈疾患の診断・治療に頑張っています（写真）。烏帽子会会員の皆様今後も筑紫病院へのご指導ご鞭撻をよろしくお願いいたします。

烏帽子会とその会員の皆様には本当に長い期間大変にお世話になりました。今後の烏帽子会の皆様のご健勝を心から祈念いたします。

2025年4月以後は烏帽子会会員でもある同級生の田邊庸一朝倉医師会長に誘われ下記で頑張っております。約30年間外来のみの管理職で病棟業務を行っていないので、電子カルテの入退院手続きなど未知の分野と取り組んでおりますがかなり厳しい状況です。科は問いませんので地域医療に貢献してその後開業を考えておられるような先生（年齢不問）には是非下記病院の門を叩いて頂きたいと思います。よろしくお願いいたします。

2025年4月以降の連絡先

〒838 - 0069

福岡県朝倉市来春4 2 2 - 1

朝倉医師会病院 総合診療科

TEL : 0946-23-0077

FAX : 0946-26-1023

urata.hd@asakura-med.or.jp

jyunurata@gmail.com（以前から使用中アドレスで使用可能です）

uratah@fukuoka-u.ac.jp も使用可能です。

jyunurata アドレスへ転送

福岡大学における眼科の臨床と研究の場への感謝の 20 年間

福岡大学医学部 眼科学 前教授 内 尾 英 一 (特別会員)



私は 2005 年に横浜市立大学から福岡大学に赴任しましたので、20 年間医学部の皆様に大変お世話になりました。改めて感謝申し上げます。

大学卒業後は長く九州を離れていましたが、もとも福岡は学生時代にも住んでいましたので、すぐに慣れることができました。福大眼科は網膜硝子体分野の優れた伝統で広く知られており、その上に私学らしい充実した臨床と研究の体制を作る上で、競争の激しい東京地区の大学病院に長くいた経験が役に立ちました。手術日を含めた毎日外来を行うこと、眼炎症、緑内障、網膜、小児眼科などの専門外来の開設などの体制の改革を行いました。医局員や関係の皆様のご協力で短期間に新しい診療体制を軌道に乗せることができました。

私の専門は眼感染症、眼アレルギー疾患、ぶどう膜炎などの眼炎症疾患や角膜移植手術ですが、多くの症例を紹介していただき、それらを診療したことを通して多くの重要な臨床研究を医局員と行って、論文として報告することができました。ウイルス性結膜炎についてはアデノウイルスに対する治療薬の開発、新型アデノウイルスの臨床的

及びウイルス学的解析を研究しました。また眼アレルギーでも重症病型の春季カタルの治療管理法として proactive 療法を提唱し、春季カタルのアレルギー学的病態や新しい病型についても研究しました。角膜移植は年間 70 例を超える手術を行い、北部九州の角膜診療のニーズに対応いたしました。特に真菌、アカントアメーバといった九州地区に多い重症角膜感染症に対する深部表層角膜移植による治療的角膜移植を積極的に行い、良好な治療成績が得ることができました。

日々の臨床の中から、診断、治療における課題をリサーチクエストンとして把握して、それに対する研究を行っていくという地道な臨床を積み重ねることにより、医局員の中に研究のある医師としての人生のスタイルを獲得してほしいという私の思いは、20 年間の福岡大学での歳月の中で眼科学教室に根付かせることができたと思っています。今後も臨床に立脚した優れた眼科の臨床研究が診療をさらに充実させて、次代の若い人たちに受け継がれていくことを確信しています。医学部、同門会、関連病院そして烏帽子会の先生方には心から感謝いたします。どうもありがとうございました。

教授退任のご挨拶

福岡大学筑紫病院 脳神経外科 前教授 東 登志夫 (特別会員)



福岡大学病院では9年間、筑紫病院では6年半にわたり、大変お世話になりました。2009年10月、母校の関連施設である小倉記念病院脳神経外科から、井上亨教授が主催される新しい教室で勤務する機会をいただきました。私の専門は、脳卒中の外科治療、特に「脳血管内手術」と呼ばれる

カテーテルを用いた低侵襲治療です。ちょうどその頃、脳動脈瘤に対するコイル塞栓術の保険適用から10年が経ち、頸動脈ステント留置術などとともに、この分野が大きな注目を集め始めていました。当時は福岡市内でも専門医・指導医が少なく、関連施設や他大学から多くの患者さんをご紹介いただきました。2011年には最新の脳血管撮影装置を導入していただき、福岡大学病院は全国でも有数のhigh volume centerとして認知されるようになりました。大学で教員としての経験を積むのは初めてのことであり、学生教育や卒後教育を通じて多くを学ぶことができました。ご指導をいただくなかで、福岡大学の皆さまの教育への熱意と真摯な姿勢には、深く感銘を受けました。

2018年10月からは、筑紫病院に異動し、全く新しいメンバーと共に新たなスタートを切りました。井上亨先生のご支援のもと、福岡大学病院脳神経外科との連携体制を築き、人的交流や相互診



筑紫病院のメンバー(2021年11月)、日本脳神経血管内治療学会の学会旗(中央)は会長の所属施設に1年間保管される。

療支援を積極的に進めてまいりました。また、脳神経内科学の坪井義夫教授のご高配により、津川潤先生、野瀬可南子先生をはじめ、多くの先生方を継続的に派遣していただきました。包括型脳卒中センターにおいて、脳神経内科医の配置による治療成績の向上は科学的にも証明されており、内科的な視点を加えることで、より質の高い脳卒中診療を実現することができました。2020年11月にはシーメンス社の脳血管撮影装置 Artis ICONOを導入していただき、灌流画像による急性期脳血管再建治療の適応判定を行える数少ない施設の一つとなりました。

2021年11月には、日本脳神経血管内治療学会の学術集会を、会長として福岡市で開催する機

会にも恵まれました。この分野は今では脳神経外科の中でも最大のサブスペシャリティです。COVID19の影響で企画や現地参加者の予測が困難な時期ではありましたが、比較的感染状況も落ち着いていたこともあり、無事に開催できたことはよい思い出となっています。

福岡大学での15年間は、私の臨床医人生において最も充実した時期でした。これまで支えてくださったすべての皆さまに、心より御礼申し上げます。4月より、京都大学の関連施設に新たなご縁をいただきました。今後も後進の指導や地域医療の発展に尽力してまいりますので、引き続きご指導ご鞭撻のほど、よろしくお願い申し上げます。



第37回日本脳神経血管内治療学会のポスター（右）と学会公式Instagram（左）。

退任ご挨拶

福岡大学筑紫病院 呼吸器・乳腺外科 前教授 山下 眞 一（特別会員）



2021年4月1日より拝命しておりました福岡大学筑紫病院 呼吸器・乳腺外科の教授を退任するにあたりこれまでお世話になった皆様へご挨拶申し上げます。

私は2012年より岩崎昭憲教授の下で福岡大学呼吸器・乳腺内分泌・小児外科にお世話になることとなりました。胸腔鏡手術から拡大手術まで外科医冥利に尽きるほど手術を堪能させていただきました。それらの集大成は岩崎教授編纂の呼吸器外科手術アドバンスとなって上梓されました。

学会活動におきまして呼吸器外科学会のガイドライン委員会、胸腔鏡手術技術認定部会等多くの委員に推薦頂きましたおかげで全国の多くの先生方との交流も深まりました。

研究では福岡大学所属で原著論文を3報、総説も2報を報告、さらに学位論文の指導も3名行うことができました。これもひとえに研究の場を与えて頂いた賜と感謝申し上げます。

米国胸部外科学会（AATSとSTS）、欧州胸部外科学会（ESTSとEACTS）などの国際学会や、台湾でのセミナー等国際的な活動も大分大学、福

岡大学の所属で発表させていただきました。福岡大学では台湾や中国からの若手呼吸器外科医が手術見学にも多く来院され、少しだけ福岡大学呼吸器外科の業績に貢献できたものと思っております。

2019年4月より福岡大学筑紫病院外科へ異動となり、21年より呼吸器・乳腺外科を標榜しました。乳癌の手術も順調に増えて筑紫地区の患者さんに貢献できたのではと振り返っております。2024年12月からはロボット手術も稼働しました。残念ながら筑紫病院では論文業績は残せませんでしたが、臨床では今後の道筋をつけることができたのではと思います。

最後に、私のこれまでの自身の外科医人生を振り返り初志貫徹とは対極にあり、つくづく中途半端で十分な結果の残せないものであったと反省しております。乳腺外科をしたり、呼吸器外科をしたり、消化器外科に首を突っ込んだり、研究をしたりで一本筋の通ったものが無かった外科医人生でした。それでもここまでやってこられたのは皆様のご指導、ご支援の賜と感謝しております。これからは外科医を引退し地域医療へ貢献したいと考えております。今後の福岡大学同門会および皆様のご発展を祈念しております。長い間ありがとうございました。

学会報告

Satellite Symposium of Asia-Pacific CardioMetabolic Syndrome Congress (APCMS) 2025 開催のご報告

福岡大学医学部 心臓・血管内科学 主任教授 三 浦 伸一郎 (11回生)

この度は、福岡大学医学部同窓会のご支援の下、2025年1月18日(土)、THE KEGO CLUB by HAPPO-EN(福岡市)にて、Satellite Symposium of Asia-Pacific CardioMetabolic Syndrome Congress (APCMS) 2025をテーマ「心血管代謝症候群の撲滅に向けて」として開催させていただきました。紙面を借りまして、ご報告させていただきます。

本シンポジウムは、2025年5月に韓国ソウルで開催予定のAPCMS2025のサテライトシンポジウムとして企画いたしました。心血管代謝症候群は、代謝調節異常として高血圧、糖尿病、肥満、インスリン抵抗性、脂質異常症、高尿酸血症が相互に作用し、心血管疾患を引き起こす症候群です。これまで、多くの臨床家や研究者がその予防と撲滅に時間を費やしてきましたが、未だ様々な問題は残存しています。医療者や研究者はお互いの知恵を出し合い、その撲滅に向けた成果を発表し、情報を発信する機会を設ける必要があります、本シンポジウムが開催されました。

今後、心血管代謝症候群の撲滅に向けて少しでも近づけますように、韓国、日本、中国をはじめアジア・太平洋地区からの演題発表やご参加をいただきました。プログラムは、基調講演、口頭セッション、ポスターセッション(一般演題)を実施し、優秀演題には、Young Investigator Awardやベストポスター賞も設けました。3つのセッションのテーマは、セッション1 Recent Advance Therapies in Cardiometabolic Vascular Diseases、セッション2 Emerging Incretin or SGLT2i Based Therapies for CardioMetabolic Diseases、セッション3 Anti-hypertensive Therapies for Cardio

Metabolic Diseases でした。

また、プレナリーレクチャーとして、Koh 先生より Cardiologist as Physician and Scientist: a 35 years Odyssey、Li 先生より Cannabinoid receptors in myocardial injury を講演していただきました。

Miuraからは、Structure and function of angiotensin II type 1 receptor and cardiometabolic syndrome をお話し致しました。ランチョンセッションは、Sukonthasarn先生に Air pollution and hypertension in Asia を講演していただきました。国内の参加者、韓国や中国、タイなどからもご参加いただき、各レクチャーやセッションとも、多くの質疑応答が活発になされておりました。

CMSの撲滅に向けての戦略を議論し、今後非常に役に立つ知識を得ることができました。最後になりますが、今回の学会が滞りなく開催できたのも同窓会の先生方のご支援のおかげです。厚く御礼申し上げます。今後とも指導ご鞭撻のほど宜しくお願い申し上げます。



第28回日本バイオ治療法学会学術集会開催報告

福岡大学医学部 産科婦人科学講座 主任教授 四元房典 (特別会員)

2024年12月7日(土)に第28回日本バイオ治療法学会学術集会が福岡 TKP ガーデンシティ新幹線博多口にて開催され、活発な議論の中、盛会裡に学術集会を終了することができました。

近年のバイオ治療は、分子生物学や遺伝子工学といった基礎科学と臨床医学の融合により、急速な進化を遂げています。本学会は1997年にバイオ治療法の研究を目的として設立され、2022年に現在の名称へ変更されました。基礎および臨床医学者が集い、最新の研究成果を共有する場として学術集会を毎年開催し、その成果を国際誌「Anticancer Research」に発表しています。

今回の学術集会では、「新たなバイオ治療が紡ぐ未来」というテーマのもと、日本全国から医学者が集結し、最新の研究成果や臨床応用の進展について活発な議論が行われました。当番世話人として、福岡大学医学部細胞生物学教室 准教授 角田俊之先生と2人で務め、また当講座の医局スタッフ一同の協力のもと、滞りなく準備から運営を遂行することができました。特別講演では、東京医科歯科大学大学院医歯学総合研究科 生体情報

継承学分野 テニュアトラック准教授 楠山譲二先生が「胎盤を介した妊娠期運動効果の次世代伝播機構」というテーマで講演されました。妊娠中の運動が胎児に与える影響や、次世代にわたる健康への影響についての最先端の研究が紹介されました。また、ワークショップ「女性研究者のキャリアパスを考える」では、学内外から4名の女性研究者が自身の経験や研究内容を交えながら、キャリア形成における課題や機会について発表しました。その後の討議も活発に行われ、これからの自身のキャリアを考える若手医学者にとって有意義な時間となりました。

最後に、本学術集会の開催にあたり、多くのご助言やご支援をいただいた関係者の皆様に、本誌をお借りし心より感謝申し上げます。また、福岡大学医学部同窓会の皆様方には心より御礼を申し上げますとともに、烏帽子会の方々の益々のご発展をお祈り申し上げます。今後も当講座医局員一同精進してまいりますので、引き続きのご支援ご鞭撻のほど、宜しく願いいたします。

日本バイオ治療法学会
第28回日本バイオ治療法学会学術集会
 ～新たなバイオ治療が紡ぐ未来～

会期 令和6年12月7日(土)
会場 福岡TKPガーデンシティ新幹線博多口3F
 (福岡市博多区博多駅中央街5-14福さ屋本社ビル)

プログラム(予定)

特別講演: 楠山 譲二 先生 (東京医科歯科大学大学院 医歯学総合研究科 生体情報継承学分野 テニュアトラック准教授)
 演題名「胎盤を介した妊娠期運動効果の次世代伝播機構」
 座長: 四元 房典 先生 (福岡大学医学部産科婦人科学講座 主任教授)

ワークショップ: 「女性研究者のキャリアパスを考える」
 座長 角田 俊之 先生 (福岡大学医学部細胞生物学教室 准教授)
 平川 豊文 先生 (福岡大学医学部産科婦人科学講座 講師)
 演者 清島 千尋 先生 (福岡大学) 横口 志保 先生 (福岡大学)
 高橋 葉子 先生 (東京医科大学) 植川 舞 先生 (福岡大学)

ランチョンセミナー: 募集中
 企画主催: 日本バイオ治療法学会活性化委員会共催

世話人 四元 房典 (福岡大学医学部 産科婦人科学講座 主任教授)
 角田 俊之 (福岡大学医学部 細胞生物学教室 准教授)

学術集会事務局: 福岡大学医学部 産科婦人科学講座
 〒814-0180 福岡県福岡市城南区七隈7-45-1
 TEL: 092-801-1011(内線3505)
 FAX: 092-805-4114
 E-mail: jabb28@fukuoka-u.ac.jp



第7回日本抗加齢医学会九州地方会学術総会を終えて

広域医療法人明和会 整形外科 スポーツ・栄養クリニック 理事長・福岡院長 武田 淳也 (16回生)

この度、2025年2月22日(土)～23(日)の2日間にわたり電気ビル共創館(福岡市)にて、私、武田淳也(平成5年卒、広域医療法人明和会 整形外科 スポーツ・栄養クリニック 理事長・福岡院長)が「第7回日本抗加齢医学会九州地方会学術総会」の大会長を仰せつかり、学術総会は約200名、併催の「ウェルエイジングフェア2025 in 九州」は約500名を超える方々にご参集頂き、現地開催を成功裡に終えることができました。

開催にあたり福岡大学医学部同窓会より格段のご高配を賜り御寄付頂きましたことを誠に有難く厚く御礼申し上げます。

さて、本会は、会員数1万名に迫る日本抗加齢医学会の正式な分科会であり、特に全国的にも「元気な都市」として注目度も人気度も高い福岡市で開催されることから地方会とは言え、毎年、広く全国からご参集いただいている学術総会です。因みに昨年の第6回日本抗加齢医学会九州地方会学術総会の大会長は福岡大学医学部心臓・血管内科学主任教授の三浦伸一郎先生でした。

今年の第7回学術総会のテーマは、「ダイバーシティ：多様性とウェルビーイング～22世紀へ向けて」とさせていただきます。「アンチエイジング：抗加齢」に今の時代を映し出す「ダイバーシティ：多様性」の概念を加えることで「ウェルエイジング」もしくは「ウェルビーイング」の対象が全世代全ての人となり、「一人ひとりの今が、より良く在ること」によって、私たち人類の22世紀の扉がより良い形で開かれることを願ひまして、このようなテーマと致しました。

レセプションパーティーでは、御来賓として、ご多忙の中、福岡市副市長 荒瀬泰子先生、中村学園大学学長・前九州大学総長 久保千春先生、福岡市医師会長・医療法人財団華林会 村上華林堂病院

理事長 菊池仁志先生、福岡市中央区医師会長・佐藤クリニック院長 佐藤茂先生など医療関係からはもちろんのこと様々な分野からのご列席を賜り身に余る御祝辞を頂きました。

また、エキシビションにおきましても「ダイバーシティ：多様性」を具現化すべく、私が日本の医療に先駆けとして取り入れたPilates(ピラティス)と私の専門である整形外科・スポーツ医学に因みまして、学術総会でも貴重なご講演を賜りました福岡大学スポーツ科学部教授 吉村一朗先生と私の共通の元患者さんで、福岡市在住の世界ランカーのポールダンサーのWild Catさん(Studio Cat)の素晴らしい演技と、女子プロ卓球リーグのアスティータ九州の川面創代表と元パラ卓球日本代表選手の立石アルファ裕一さん(福岡大学商学部平成27年卒)にご協力頂き一流の卓球選手のラリーなどを魅せて頂き、さらには日本一お肉にお詳しいドクターとして知られる斎藤糧三先生(日本機能性医学研究所所長・斎藤クリニック院長)から牧草牛／健康牛のご提供、そして、日本一ワインにお詳しいドクターとして知られる青木晃先生(日本美容内科学会理事長・ワインスクール「レコール・デュ・ヴァン」渋谷校校長・ウェルエイジングクリニック南青山理事長)にセレクトして頂いたワインを皆様方に味わって頂き大いに盛り上がりました。

学術総会当日は、ウェルビーイングに向けての叡智の結集と言うに相応しい先生方のご講演から、御参加頂いた皆様方も抗加齢医学の最新の知見を得ることができ、きっと有意義なお時間を過ごされたことと存じます。特に第7回は整形外科医の私が大会長ということもあり「骨粗鬆症」、「足」、そして私のライフワークの一つでもある「骨盤底筋の運動療法」関連のセッションも組ませて

頂き、「骨の健康とモーターコントロールエクササイズとしてのピラティス」（日本整形外科学会教育研修会）を会長講演とさせていただきました。

実は第7回開催年の今年の2025年は、私事ながら、ウェルビーイングに欠かせない二文字「スポーツ」と「栄養」を冠した「スポーツ・栄養クリニック」を私が開業致しまして丁度20周年を

迎える節目の年でもあり、この度の会の開催は一開業医としては忘れえぬ思い出となるに違いありません。

最後に、本学会の開催に際し、多大なご支援・ご指導を賜りました福岡大学医学部同窓会をはじめとする皆々様に改めて心より御礼申し上げます。



TBS テレビ報道局特別解説委員 小嶋修一さんにピラティスの説明をする私



レセプションパーティーでのエキシビションのポールダンス、当日飛び入り参加のダンサーは麻酔科医！



向かって左から私、荒瀬泰子副市長、立石アルファ裕一さん、現役選手、川面創九州アスティーダ社長



向かって左からアイクリニック天神 大倉萬佐子先生、私、順天堂大学泌尿器科主任教授 堀江重郎先生、中村学園大学学長 久保千春先生



レセプションパーティー

第 70 回日本臨床検査医学会九州地方会 第 36 回日本臨床化学会九州支部総会 第 5 回日本医療検査科学会九州地方会 合同学会 開催のご報告

福岡大学医学部 臨床検査医学 主任教授 小 川 正 浩 (14回生)

2025 年 2 月 22 日 (土)、福大メディカルホールにて第 70 回日本臨床検査医学会九州地方会・第 36 回日本臨床化学会九州支部総会・第 5 回日本医療検査科学会九州地方会合同学会を開催いたしました。本合同学会の開催に際し、福岡大学医学部同窓会より多大なるご支援を賜りまして心より感謝申し上げます。

本合同学会のテーマは「臨床検査コンテンポラリーー Break New Era of Clinical Laboratory」としました。コロナ禍を経て、世の中の医療に対する関心はより一層高まり、増加する社会保障費、進化し続けるデジタル医療、開始間もない医師の働き方改革など、私たちには常に問題が提示されそれに対する答えと共に変化と進化が迫られています。臨床検査の分野においても押し寄せる新しい時代の波に埋没することなく、現状を把握すると同時に新しい波を創り出し次々と壁を打ち破り続ける必要があります。

特別講演では、九州大学病院検査部技師長の堀田多恵子先生に「医療 DX と臨床検査～臨床検査標準コードのリアル～」、福岡大学医学部病理学

講座の濱崎慎主任教授に「病理診断と遺伝子学的検査の関わり」をご講演いただきました。シンポジウムでは、「ISO15189:2022 版:改版に伴うリスクマネジメントの取り組み」について、当施設を含む 3 施設よりご講演いただき、新たな発見や気づきを得ることができ、多くの学びを深め合うことができたのではないかと考えております。

また、年 1 回行われる本合同学会における初めての試みとして、一般演題 (12 セッション) をコンペティション形式とし、各セッションより最優秀演題賞・優秀演題賞を設け表彰いたしました。こうした試みもあり、本会の参加者は 240 名で、例年より約 100 名多く、大盛況でした。本合同学会が参加した皆様にとって今後の学術活動や仕事のモチベーションに繋ることを期待しています。

このように盛会裏に終えることができましたのも同窓会の皆様からの温かいご支援の賜物と改めて心より感謝を申し上げます。ありがとうございました。

今後ともご指導ご鞭撻のほどよろしくお願い申し上げます。



第8回日本小児内分泌学会 九州・沖縄地方会の開催のご報告

福岡大学医学部 小児科 佐々木 聡 子 (30回生)

令和7年2月23日に福大メディカルホールにて、第8回日本小児内分泌学会九州・沖縄地方会を開催いたしました。本学会開催にあたり、医学部同窓会からご支援を賜りましたことに心よりお礼申し上げます。

日本小児内分泌学会は「小児内分泌学の進歩普及をはかり、小児の福祉に寄与する」という目的を持った組織であり、小児内分泌学の診療・研究・教育の頂きを高めたいという理念のもと活動しています。その活動の中で、2017年に「日本小児内分泌学会九州・沖縄地方会」が全国に先駆けて発足いたしました。年1回開催される地方会では、貴重な症例報告や難渋症例の検討、研究発表など多岐にわたる演題が発表されており、若手からベテランまで各世代を交えた討論が恒例となっております。

第8回日本小児内分泌学会九州・沖縄地方会では現地開催のみにもかかわらず78名（うち九州外から5名）の先生方にお集まりいただき10時30分～18時近くまで症例報告9題、難渋症例4題の一般演題計13題、教育講演2題で行われました。教育講演①は福岡大学内分泌・糖尿病内科准教授 高士祐一先生に「成人期に求められる病・骨軟化症のケアと診療科連携の重要性」

というタイトルでご講演をいただき、成人科で骨粗しょう症として見逃されている低リン血症性骨軟化症、腫瘍性低リン血症性骨軟化症などの臨床経過、生体のリン代謝についてご紹介いただきました。

教育講演②では長野県立こども病院内分泌代謝科部長兼生命科学研究センター長 長崎啓祐先生に「トランジションを見据えた先天性甲状腺機能低下症のマネジメント」というタイトルでご講演をいただき、自施設での研究や最近の知見から、遺伝子変異の種類により内服中止できる割合が変わることや、サイログロブリン遺伝子異常で甲状腺分化癌の割合が高いこと、甲状腺合成障害で約70%が甲状腺に1cm以上の結節があるといわれていることなどトランジションで成人科へ引き継ぎをお願いする上で重要な情報をお話いただきました。教育講演のみならず、計13題の一般演題でも例年のごとく、若手からベテランまで活発な議論がかわされ多くの皆様にお越しいただき無事盛会のうちに終了することができました。

今回の学会が滞りなく開催できましたのも同窓会の先生方のご支援のおかげです。あらためて心より御礼申し上げます。今後ともご支援のほどよろしくお願いいたします。

支部だより

2024 年「上方会」関西支部便り

関西支部長 渡 邊 太 郎 (11回生 社会医療法人 純幸会 理事長 関西メディカル病院 院長)

2024 年 12 月 30 日に毎年恒例の「福岡大学医学部烏帽子会関西支部 上方会 忘年会」を、昨年に引き続き「ホテル阪急レスパイア大阪」で楽しく行うことができましたので報告させていただきます。

コロナ禍が開けて2回目の上方会です。OB13名、学生14名、総勢27名と昨年のOB12名、学生が17名よりも2名参加人数が減少したことが残念です。今回も関西出身OBである小玉医学部長の参加をいただきました。また場所を変えて2次会も開催し有意義な意見交換が行われました。

前々年度の同窓会会報誌には関西支部上方会の歴史を簡単に説明させていただきましたが、なんと言ってもこの会の大きな特徴は学生さんの参加費を無料としていることです。私が学生時代（入学1981年）から伝統は続いています。近年はOBよりも学生さんの人数が多くなる事が多々あります。運営できているのは仕事の都合で参加できないけれども寄付をしてくれるOBと、当日参加のOBが会費以外に上乗せして寄付がいただけ

ているからです。ぜひこの伝統を継続したいと思います。そして多くのOBが参加して沢山の学生さんと交流できることが目標です。昨今のホテルでの懇親会はインバウンドのために会場費が高騰してきています。

この伝統を継続する為にもぜひOBの先生お誘い合わせの上2025年度上方会に参加よろしくお願いします。参加できないOBの先生も後輩のために昔を思い出してカンパよろしくお願いします。



第30回 鹿児島支部総会および懇親会報告

鹿児島支部長 橋 口 恭 博 (天保山内科 院長・11回生)

日 時：令和7年2月15日(土) 17:00～

会 場：ホテルレクストン鹿児島

出席者：32名

鹿児島支部は現在200名超の会員の先生方が、鹿児島市内はもとより薩摩・大隅そして離島の県内津々浦々で活躍されており、本年度も5名の47回卒会員に入会頂いております。本年も本日より小玉 正太 会長(13)、および同期の武末 佳子 副会長(11)にお越し頂き、2月第3土曜日の15日に開催しました。

開会に先立ち、令和6年5月10日 ご逝去された整形外科橋口クリニック 橋口 雅尚 先生(4)、令和6年6月19日ご逝去された鴨池眼科クリニック 川畑 悦男 先生(4)に黙祷を捧げました。お二方ともご闘病の末、ご家族に見守られながらお亡くなりになられたとのことで、改めてご冥福をお祈り申し上げます。

総会では会員動静をはじめ、令和6年度事業および会計ならびに監査報告、令和7年度事業および予算(案)の承認。今給黎 和幸 副支部長(18)、川本 研一郎 幹事(23)、柴田 邦彦 監事(3)など新役員人事承認などにつきご討議頂きました。また会員間の連絡網構築のため、各郡市医師会別に支

部役員をお願いすることとなりました。

講演1は座長を久米 浩太 先生(6)にお願いし、鹿児島大学 大学院 医歯学総合研究科 婦人科がん先端医療学講座 特任准教授 宮田 康平 先生(29)より「産婦人科学に人工知能を実装する試み」とのご演題で講演頂き、最先端研究の一端を垣間見ることができました。

講演2では座長を齊藤 稔 先生(13)にお願いし、福岡大学医学部同窓会烏帽子会会長 小玉 正太 先生(13)より「福岡大学医学部烏帽子会-近況報告：新病院を中心に」とのご講演を最近の本学の様子、特に新病院について動画でのご案内を頂き、同期の三浦 伸一郎 院長(11)のご活躍を祈念しながら拝聴しました。

その後懇親会場に席を移し、同期の武末 佳子 副会長(11)のご挨拶と烏帽子会の活動報告の後、山下 互 先生(2)にご発声頂き、乾杯となりました。懇親会では一桁回卒の大先輩の先生方から初参加の若手の先生方まで、昔話や近況報告を頂き、楽しい時間を過ごしました。

当支部では今後も支部会員の方々にご協力を頂きながら運営し、医療業務にも生かされる絆を繋げられる様にできればと考えています。来年の第31回支部会もご参加を宜しくお願い申し上げます。



大城昌平先生の喜寿祝い

筑後支部副支部長 長 井 健 祐 (12回生)

令和6年12月21日に、福岡大学医学部同窓会筑後支部の有志で大城昌平先生(1回生、筑後支部顧問、大城医院 院長 柳川市)の喜寿を祝う会を催しました。参加者は、浅倉敏明先生(8回生、元筑後支部長、浅倉整形外科医院 院長 久留米市)、宿里芳孝先生(10回生、筑後支部長、宿里医院 院長 大川市)、関 幸彦先生(12回生、筑後支部評議員、行徳内科胃腸科循環器科診療所 院長 久留米市)、山内祥弘先生(12回生、筑後支部評議員、やまうちクリニック 院長 久留米市)と長井(12回生、筑後支部副支部長、長井小児科医院 院長 久留米市)です。

大城先生は同窓会筑後支部の設立にご尽力された大先輩ですが、我々後輩のことをいつも優しく

見守り気遣ってくださっています。会食しながら、先生から医療のみならず、地域の皆さんとの交流のお話もいろいろとお聞かせいただき、穏やかなお人柄を改めて感じることができました。花束贈呈、記念写真撮影の後、最後に大城先生を胴上げでお祝いし中締めとなりました。なお当日、開会が午後7時のところ、17時との勘違いから、開店前の午後5時に全員集合してしまいましたが、早く始めた分、大城先生とたくさんお話ができ、また二次会までご一緒いただきとても楽しい時間を過ごすことが出来ました。

先生には、これからもますますお元気でご活躍いただき、またいつまでも筑後支部を見守っていただきたく存じます。



浅倉先生から大城先生へ花束贈呈



前列中央 大城先生、左 浅倉先生、右 宿里先生
後列右から山内先生、関先生、長井

福岡支部女性の会報告

小野内科クリニック 院長 案 浦 美 雪 (11回生)

昨年末、年の瀬も押し迫った12月20日に福岡支部の女性の会を開催しました。まかせん会会長の権藤公和先生に特別参加いただき、総勢12名と少なかったもののちょっと早いクリスマス会ができました。今回福岡市でも女性の会の開催を！という声もあり思い立ったのですが、忘年会も多い12月にしてしまったため参加できなかった皆様には申し訳ありませんでした。個人的には出欠の確認をした役得でたくさんの会員からメールをいただきました。多くのお返事があったのが久しぶりの“レディースコンパ”のフレーズで、学生時代を思い出し懐かしい思いが膨らみました。

出席者は1回生から27回生まででしたので、お互いが初対面という例も結構見られました。ご

自分での開業や家業をお手伝いされている方、勤務医の方など仕事の形態も多様性に富み、いろいろな話が聞かれる実り多い会になったと思います。もちろん昔話にも花が咲き、食べて飲んであっという間に時間がたっていたというのが正直な感想です。

烏帽子会総会に行くのはちょっと敷居が高いといわれる方にも参加していただきました。またいろんな人に会えて楽しかったとの声もありました。気楽なおしゃべりを楽しむ会として今後も続けていければと思っています。次回は開催時期を考慮したいと思いますので福岡地区の女性会員の皆様、ご参加のほどよろしくお願いします。



学生会員支援報告

令和6年度 M4 白衣授与式の報告

医学教育推進講座 主任教授 北 島 研 (21回生)

2024年12月13日、医学部 RI 講義棟大講堂にて開催された M4 白衣授与式のご報告です。M4 のカリキュラムでは行動科学Ⅲの科目最終日にある授業のひとつですが、ご父母も参加され、式典として開催されました。

司会を務められた M4 主担任の麻酔科 秋吉教授より学籍番号順に 1 人ずつ名前を呼んで頂き、学生は前に出て小玉医学部長・烏帽子会会長（13 回生）より、医療系大学間試験実施評価機構（CATO）から発行された臨床実習生認定証を手渡して頂きました。令和5年度からの共用試験公的化により、M4 学生は診療参加型臨床実習（クリニカル・クラークシップ）を行うために、「知識」の修得状況を評価する CBT の他に、「技能」や「態度」を評価する臨床実習前客観的臨床能力試験（臨床実習前 OSCE）に合格し、臨床実習生（医学）の証

を保持しなくてはなりません。この大変な試験を、本学の各科試験とともに合格され、臨床実習生と認められた M4 学生 93 名には、臨床実習生認定証を受け取った後に、ステージ傍にて烏帽子会から頂いた長袖白衣を、臨床実習生の名札とともに 1 人ずつお渡しさせて頂きました。続いて、受け取って頂いた白衣を着用頂き、M4 代表の岡本克隆さんの発声により、M4 学生皆でヒポクラテスの誓いを読み上げ、臨床実習への宣誓を行いました。最後には全員で校歌斉唱の後、写真撮影を行い、本号表紙のように立派な白衣姿をご父母に披露し、翌週月曜日からの臨床実習生のスタートを切ることができました。

末筆ではございますが、ご参加頂いた福岡大学の教授の皆様、白衣のご提供を頂いた烏帽子会の皆様に、心より感謝申し上げます。



白衣授与式・臨床実習生認定式を終えて

福岡大学医学部医学科5年生 岡 本 克 隆

2024年12月13日、RI大講堂にて白衣授与式と臨床実習生認定式が執り行われました。この重要な節目を迎えるにあたり、私たち学生一同を支えてくださった全ての皆様に、心より感謝申し上げます。

白衣授与式では、烏帽子会から名前が刺繍された白衣を手渡していただきました。その白衣に袖を通した瞬間、医療者としての責任と使命感を深く実感し、理想の医師像に向けて歩みを進める決意を新たにしました。

これまでの学生生活を振り返ると、基礎医学の学びを中心に多くの試練と努力がありました。難しさに直面することもありましたが、先生方のご指導や仲間との支え合いによって成長できたと感

じています。

これから始まる臨床実習では、知識を実践に活かし、医療現場のリアルな経験を通じて視野を広げていきたいと考えています。また、患者さんとのコミュニケーションや信頼関係の大切さを学び、医療者としてふさわしい態度を身につけることを目指します。実習を通じて、自分に足りないものを見つめ直し、理想の医師像に近づけるよう努力を続けてまいります。

最後になりますが、この式を準備して下さった皆様、ご指導いただいている先生方、そして支えてくださる保護者の皆様に感謝申し上げます。これからも努力を惜まず、精一杯取り組んでまいります。



M6 国試対策委員会による国試対策直前講座と激励会開催のご報告

国試対策委員長・医学教育推進講座 主任教授 北 島 研 (21回生)

福岡大学医学部医学科 M6 学生には 1 ～ 10 班に班担任 1 名の他、国試対策委員として 1 名、合わせて 20 名の大学教員で国試対策委員会を構成し、国試のサポート役にあたっております。国試直前の令和 7 年 1 月の 1 か月間には、日替わりで班担任・国試対策委員の計 10 名の先生方による国試対策直前講義が行われ、自由出席にも関わらず、20 から 40 名程度の M6 学生が熱心に聴講していました。受験生が皆不安になる国試直前のこの時期に、先生方の講義を聴いて心を落ち着かせることができました。

また国試対策委員会の主催で 1 月 16 日、第 4 回目最後の全国統一模擬試験の終了後、M6 国試激励会を開催致しました。班担任や国試対策委員の先生から激励の言葉を頂いた後、後輩 M5 学生会代表 中山裕太さんからのエールをもらいました。M6 学生からは昨年エールを贈った野中翔太さんが代表として合格の決意表明を行い、皆で合格を誓いました。最後に烏帽子会から提供された国試応援袋をひとりひとりに班の担当教員から手渡し頂き、激励会は終了となりました。国試応援袋には、福岡大学校章とロゴの入ったオリジナ

ル応援トートバッグの中に、試験会場での水分や栄養補給グッズの他、試験の際に使用が指示されている HB の鉛筆と消しゴム、消毒用品、リラックスできるアイマスクなどが入っていました。

そして国試当日の 2 月 8 日と 9 日には、M6 希望者が宿泊している博多駅近くのホテルロビーにおいて教員より激励の声かけを行い、試験会場へ移動するバスを見送りました。受験会場に応援バッグを持参する学生も多く、各自のお守り代わりになっているようでした。

3 月 14 日の合格発表では、M6 学生の頑張りの結果、新卒合格率 94.6% (合格者 87 名) と全国 82 大学の平均 95.0% に近い合格率となりました。既卒生も合格率 70.0% と健闘し、14 名が合格されています。

この場をお借りして、講義などを通じて M6 学生に激励を頂いた教員の先生方、袋詰めをして頂いた M5 学生の皆様、国試応援袋や講師謝礼をご提供頂いた烏帽子会の皆様に感謝申し上げます。令和 7 年度も引き続き国試対策に努めて参りますので、ご支援のほどどうぞ宜しくお願いいたします。

福岡大学 医学部 国試対策委員会主催 M6 国試対策直前講座 場所：医学情報センター6階カンファレンス室		
日時	診療科	講師
1月 8日(水)14時	呼吸器内科	中尾 明先生
1月 9日(木)13時	産婦人科 産科救急対応・妊婦健診の基本	平川 豊文先生⑧
1月10日(金)13時	精神神経科 精神科救急対応・精神科救急対応	堀 藤先生
1月17日(金)16時	腫瘍・血液・感染症内科	佐々木 秀法先生
1月22日(水)15時30分	整形外科	木下 浩一先生⑧
1月22日(水)16時30分	小児科	吉兼 由佳子先生⑧
1月27日(月)11時	放射線科 国家試験の過去問を参考にした 画像の読み方講座	高山 幸久先生
1月27日(月)13時	精神神経科	飯田 仁志先生⑧
1月27日(月)14時	内分泌・糖尿病内科	牟田 芳実先生⑧
1月28日(火)11時30分	腎泌尿器外科 国試に出るところだけ 100%必勝法特別講座	羽賀 宣博先生
【お問い合わせ】医学教育推進講座・国試対策委員長 北島 研 【後援】福岡大学医学部同窓会		



国試対策直前講座



教員の先生方からの激励



M5 学生会会長 中山裕太さんからのエール



国試応援袋を教員から手渡し(2班担任・M6主担任:坂田俊文先生(10回生)、
国試対策委員:吉兼由佳子先生(19回生))



7班担任:桑原豪先生(27回生)、
6班国試対策委員:飯田仁志先生(32回生)



10班担任:今泉聡先生(25回生)



国試応援袋を受け取ったM6学生の皆さん



M5学生会・相和会による袋詰め作業



国試応援袋・グッズ



国試激励会にご協力頂いたM5学生会・相和会メンバー



国試当日ホテルロビーでの相和会による受験票・筆記用具・腕時計の確認



ホテルロビーでの教員による激励



試験会場への送迎バスの見送り



学位授与式

第 32 回全国私立医科大学同窓会連絡会全国会のご報告

烏帽子会理事 北 島 研 (21回生)

全国私立医科大学同窓会連絡会の全国会が、令和6年11月30日17時より神奈川県箱根町の「ホテル河鹿荘」で開催されました。全国の29私立医科大学同窓会より合計125名の参加がありました。総会では、主幹校である北里大学医学部同窓会の高平尚伸会長のご挨拶の後、東部会、西部会からの報告と昨年度主幹校の獨協医科大学、来年度主幹校の川崎医科大学の同窓会長からご挨拶がありました。その後の講演会では北里大学名誉教授で北里柴三郎記念博物館長の北里英郎先生より「新千円札の顔となった北里柴三郎のひととなり」という話題で講演がありました。北里研究所の創設者である北里柴三郎先生は、出身地の熊本県阿蘇郡小国町北里で医学を志し、ドイツ留学中の1889年(明治22年)に破傷風菌の純粋培養に成功され、その毒素に対する免疫抗体を発見して、血清療法を確立し、世界的な研究者となりました。北里柴三郎先生の「医者使命は病気を予防することにある」というお考えにふれ、私も日常診療

において初心に立ち返ることができました。

続いての懇親会会場では、北里研究所 浅利 靖理事長、北里大学 砂塚 敏明 学長、北里大学メディカルセンター 阿古 潤哉 病院長による来賓挨拶の後、宴席が始まりました。座敷で食事を頂きながら、各同窓会の近況報告があり、烏帽子会からは、小玉 正太 会長(13回生)が、朔 啓二郎 名誉会長(1回生)、林 英之 副会長(1回生)、竹下 盛重 副会長(3回生)、和田 秀一 副会長(13回生)、関東支部の柏木 慎也 支部長(21回生)、理事の北島 研(21回生)をご紹介頂きました。その後も様々な私立医大同窓会との情報交換を行った後、来年度主幹校である川崎医科大学医学部同窓会より令和7年10月4日に岡山市で全国会が開催されることが発表され、懇親会が終了となりました。今後とも烏帽子会と全国会、西部会との連携を行うことで、私立医大同窓会活動における情報の共有を進めていきたいと考えております。



和田 秀一 副会長⑬と小玉 正太 会長⑬



朔 啓二郎 名誉会長①



柏木 慎也 関東支部長⑳と北島 研 理事㉑



全国会懇親会場



全国会会場 箱根町 ホテル河鹿荘

医局長・医長名簿

(○内の数字は福大医学部卒業)

令和7年4月現在

	医 局 長	病棟医長	外 来 医 長
〔 福 岡 大 学 病 院 〕			
腫瘍・血液・感染症内科	佐々木 秀 法	中 島 勇 太 ③①	茂 木 愛 ②⑤
内 分 泌・糖 尿 病 内 科	高 士 祐 一	千 田 友 紀 ④⑥	横 溝 久
循 環 器 内 科	有 村 忠 聰 ②⑧	出 石 礼 仁	加 藤 悠 太 ③③
消 化 器 内 科	船 越 禎 広 ②③	松 岡 弘 樹 ③⑦	古 賀 毅 彦 ③③
呼 吸 器 内 科	春 藤 裕 樹	池 田 貴 登	濱 田 直 樹
腎 臓・膠 原 病 内 科	高 橋 宏 治 ③②	永 室 尚 子	多 田 和 弘
血液浄化療法センター		伊 藤 健 二 ②⑤	
脳 神 経 内 科	津 川 潤	井 上 賢 一 ③⑧	栗 原 可南子
精 神 神 経 科	飯 田 仁 志 ③②	畑 中 聡 仁	菅 原 裕 子
〃 (ディケア)			吉 村 裕 太
小 児 科	宮 本 辰 樹 ②⑦	山 口 拓 洋 ③⑦	女 川 裕 馬
消 化 器 外 科	山 田 哲 平 ②⑦	橋 本 恭 弘	中 島 亮
呼吸器・乳腺・小児外科	宮 原 聡	若 原 純 一 ③⑦	中 島 裕 康
整 形 外 科	石 松 哲 郎 ③②	柴 田 光 史	松 永 大 樹 ③③
形 成 外 科	小 柳 俊 彰	谷 ありさ	前 岡 尚 憲
脳 神 経 外 科	竹 本 光 一 郎 ②⑥	手 賀 丈 太	榎 本 年 孝 ③③
心 臓 血 管 外 科	桑 原 豪 ②⑦	寺 谷 裕 充 ③①	古 井 雅 人
皮 膚 科	清 水 裕 毅 ③⑥	大 賀 保 範	佐 藤 絵 美 ③⑥
腎 泌 尿 器 外 科	宮 崎 健 ③④	郡 家 直 敬	岡 部 雄
産 婦 人 科	吉 川 賢 一 ③⑥	漆 山 大 知 (産科) ③①	伊 東 智 宏 (産科) ②⑨
〃		宮 田 康 平 (婦人科) ②⑨	清 島 千 尋 (婦人科)
眼 科	原 田 一 宏	安 武 朋 寛	川 村 朋 子
耳 鼻 咽 喉・頭 頸 部 外 科	佐 藤 晋 ③⑥	力 丸 文 秀 ①⑧	木 村 周 一
放 射 線 科	肥 田 浩 亮	赤 井 智 春 ②⑦	中 根 慎 一 朗
麻 酔 科	富 永 将 三	平 井 規 雅	柴 田 志 保 ②⑥
歯 科 口 腔 外 科	喜 多 涼 介	眞 野 亮 介	吉 野 綾
病 理 部	上 杉 憲 子		
臨 床 検 査・輸 血 部	森 戸 夏 美 ①⑧		
救 命 救 急 セ ン ター	森 本 紳 一 ③⑤	村 西 謙 太 郎 ③⑤	
総合周産期母子医療センター		新 居 見 俊 和 (新生児部門)	
〃		小 幡 聡 (小児外科)	
総 合 診 療 科	日 吉 哲 也	瀬 知 裕 介 ③⑧	吉 田 圭 希 ④⑥
〔 福 岡 大 学 筑 紫 病 院 〕			
総 医 局 長	三 橋 泰 仁	(耳鼻咽喉・頭頸部外科)	
循 環 器 内 科	池 周 而 ②④	松 岡 優 太 ③⑤	高 宮 陽 介 ②⑥
内 分 泌・糖 尿 病 内 科	阿 部 一 朗	工 藤 忠 睦 ②③	小 林 邦 久
呼 吸 器 内 科	串 間 尚 子	木 下 義 晃	中 島 章 太
消 化 器 内 科	小 野 陽 一 郎 ②⑥	天 野 良 祐 ③②	永 山 林 太 郎 ③②
脳 神 経 内 科			
小 児 科	平 井 貴 彦 ③⑥	塩 手 仁 也 ③⑥	中 尾 あ い 子
外 科	小 島 大 望 ②⑥	宮 坂 義 浩	和 田 英 雄
呼 吸 器・乳 腺 外 科	諸 鹿 俊 彦	小 野 周 子 ④⑥	諸 鹿 俊 彦
整 形 外 科	坂 本 哲 哉	小 阪 英 智 ③④	蓑 川 創 ③⑥
脳 神 経 外 科	井 上 律 郎 ②⑨	井 上 律 郎 ②⑨	湧 田 尚 樹
腎 泌 尿 器 外 科	松 崎 洋 吏 ②⑦	宮 島 茂 郎 ②②	王 丸 泰 成 ③①
眼 科	高 木 宣 典	高 木 宣 典	鬼 木 顕 秀
耳 鼻 咽 喉・頭 頸 部 外 科	三 橋 泰 仁 ③③	坂 田 健 太 郎 ③⑨	坂 田 健 太 郎 ③⑨
放 射 線 科	浦 川 博 史 ①⑤		
救 急・総 合 診 療 科	崎 原 永 志 ③③		
麻 酔 科	若 崎 る み 枝		
内 視 鏡 部			
病 理 部	田 邊 寛 ②②		

※印は循環器内科、内分泌・糖尿病内科、呼吸器内科、消化器内科の代表医長

教育職員人事（講師以上）

（○内の数字は福大医学部卒業回） [令和6.10.2～令和7.4.1]

区分	所 属	役職・資格	氏 名	発令日	摘 要
退 職	皮膚科	講 師	古 賀 文 二 ②③	6.10.31	
	整形外科	講 師	田 中 潤	6.12.31	
	総合医学研究センター	教 授	松 永 彰 ③	7.3.31	定年退職
	総合医学研究センター	教 授	岩 崎 昭 憲 ⑤	7.3.31	定年退職
	眼科学	教 授	内 尾 英 一	7.3.31	定年退職
	筑紫臨床医学研究センター	教 授	浦 田 秀 則 ③	7.3.31	定年退職
	筑紫脳神経外科	教 授	東 登志夫	7.3.31	定年退職
	筑紫呼吸器・乳腺外科	教 授	山 下 眞 一	7.3.31	定年退職
	消化器内科	准 教 授	釈迦堂 敏	7.3.31	定年退職
	筑紫外科	准 教 授	東 大二郎 ⑮	7.3.31	定年退職
	筑紫呼吸器・乳腺外科	准 教 授	吉 田 康 浩 ⑭	7.3.31	
	産婦人科	講 師	倉 員 正 光	7.3.31	
	整形外科	講 師	瀬 尾 哉	7.3.31	
	整形外科	講 師	中 山 鎮 秀	7.3.31	
	西新病院循環器	講 師	井 上 寛 子	7.3.31	
	西新病院総合・検診	講 師	河 野 靖	7.3.31	
	臨床検査医	講 師	高 田 耕 平	7.3.31	
	生理学	講 師 (4-7)	内 田 俊 毅 ⑩	7.3.31	定年退職
	眼科学	講 師 (4-7)	高 橋 理 恵	7.3.31	
	眼科学	講 師 (4-7)	ファン・ジェーン	7.3.31	
	救命救急センター	講 師 (4-7)	入 江 悠 平 ⑳	7.3.31	
	脳神経内科	講 師 (4-7)	合 馬 慎 二 ②③	7.3.31	
	筑紫整形外科	講 師 (4-7)	野 村 智 洋 ⑳	7.3.31	
採 用	眼科学	教 授	平 山 雅 俊	7.4.1	
	脳神経内科	准 教 授	緒 方 利 安	7.4.1	
	放射線部第一第二	准 教 授	金 子 恒一郎	7.4.1	
	呼吸器・乳腺内分泌・小児外科	准 教 授	庄 司 文 裕	7.4.1	
	産婦人科	准 教 授	宮 田 康 平 ⑳	7.4.1	
	循環器内科	講 師	出 石 礼 仁	7.4.1	
	皮膚科	講 師	鶴 田 紀 子	7.4.1	
	救命救急センター	講 師 (4-7)	中 村 篤 雄	7.4.1	
	呼吸器内科	講 師 (4-7)	柳 原 豊 史	7.4.1	
昇 格	解剖学	教 授	貴 田 浩 志	7.4.1	
	総合周産期母子医療センター	教 授	井 上 貴 仁 ⑮	7.4.1	
	リハビリテーション部	教 授	鎌 田 聡	7.4.1	
	救急治療センター	教 授	喜多村 泰 輔 ⑮	7.4.1	
	卒後臨床研修センター	教 授	八 尋 英 二 ⑮	7.4.1	
	筑紫呼吸器・乳腺外科	教 授	早稲田 龍 一	7.4.1	
	消化器内科学	准 教 授	横 山 圭 二 ②②	7.4.1	
	消化器内科	准 教 授	芦 塚 伸 也	7.4.1	
	内視鏡部	准 教 授	石 田 祐 介	7.4.1	
	循環器内科	准 教 授	志 賀 悠 平 ②⑥	7.4.1	
	微生物・免疫学	講 師	坂 本 篤 彦	7.4.1	
	微生物・免疫学	講 師	吉 村 芳 修 ③①	7.4.1	
	皮膚科	講 師	佐 藤 絵 美 ③②	7.4.1	
	整形外科	講 師	石 松 哲 郎 ③②	7.4.1	
	総合周産期母子医療センター	講 師	瀬戸上 貴 資 ②⑥	7.4.1	
	循環器内科	講 師	平 田 哲 夫	7.4.1	
	心臓血管外科	講 師	古 井 雅 人	7.4.1	
	整形外科	講 師 (4-7)	柴 田 光 史	7.4.1	
	整形外科	講 師 (4-7)	廣 田 高 志 ③②	7.4.1	
	腎臓・膠原病内科学	講 師 (4-7)	高 橋 宏 治 ③②	7.4.1	
	麻酔科	講 師 (4-7)	柴 田 志 保 ②⑥	7.4.1	

編 集 後 記

国際交流の重要性が叫ばれる現代において、米国現政権によるハーバード大学の留学生受け入れ資格停止の決定は、学術の自由と多様性に対する大きな逆風となりました。福岡大学医学部同窓会・烏帽子会では、これまで多くの同窓生が海外で研鑽を積み、医学の発展に貢献してきました。その流れの一部が断たれることは、未来の医療を担う若者たちにとっても大きな損失です。医学は国境を越え、知識と技術の交流によって進化します。異なる文化や価値観に触れることで、医師としての視野が広がり、より良い医療を提供できるようになります。今回の決定が一時的なものであることを願いつつ、私たちは引き続き、留学を志す同窓生を支援し、国際的な学びの場を守る努力を続けていきたいと思ひます。

広報担当理事 永光 信一郎 (13 回生 福岡大学医学部 小児科学)



EBOSHIKAI

福岡大学医学部同窓会総会・懇親会

第44回 烏帽子会総会

日時

令和7年 7月5日 土曜日 17時00分～20時00分

会費:10,000円

会場

ソラリア西鉄ホテル8階 福岡市中央区天神2-2-43 TEL:092-752-5555

総会 17時00分～18時20分

17:00～17:30 総会

17:35～17:50 研究奨励賞表彰

17:55～18:05 FU-OMSA表彰

18:10～18:20 烏帽子会賞表彰・貢献者表彰



講演会・懇親会 18時30分～20時00分

- 福岡大学有信会理事長ご挨拶
- 福岡大学医学部同窓会烏帽子会名誉会長／福岡大学 名誉学長ご挨拶
- 講演：横関 弘一先生(28回生)「整形外科医のよもやま話」

ご出席を希望される方は「maileboshi@gmail.com」のアドレスへ7月1日までにお送りください。

同窓会幹事 2025年烏帽子会準備委員会一同(28回生代表 荒武 憲司)

同窓会会長 小玉 正太(13回生)

同窓会事務局 〒814-0180 福岡市城南区七隈7-45-1

TEL 092-865-6353 / FAX 092-865-9484 / HP www.eboshikai.jp

烏帽子会会報第78号

発行日 令和7年6月1日
発行人 小玉 正太
編集人 小玉 正太

発行所 〒814-0180 福岡市城南区七隈7-45-1
福岡大学医学部同窓会
電話:092-865-6353(直通)
092-801-1011(代表) 内線[3032]
FAX:092-865-9484
E-mail: maileboshi@gmail.com

印刷所 ロータリー印刷株式会社
福岡市中央区港2-8-9
電話:092-711-7741
FAX:092-711-7901